

繰り返される米兵による凶悪犯罪に再び抗議する決議

本市議会は、11月2日に「米兵による後を絶たない日本人女性への暴行事件に抗議する決議」を全会一致で可決し、オバマ大統領へ送付した。

しかし、その後も米兵による住居侵入・傷害事件（11月2日）、住居侵入事件（11月18日）などが繰り返され、沖縄県民をはじめ、日本国民の怒りは頂点に達している。

これらの事件は、在日米軍が「夜間外出禁止令」を出している最中に発生しており、「夜間外出禁止令」がいかにも口先だけのものであって、再発防止策として全く効果がないものであることが明らかになった。

米兵による日本人女性への集団暴行事件が発生した際、「もはや正気の沙汰ではない」と強く非難した仲井真弘多沖縄県知事は、訪米し直接抗議した。

また、沖縄県議会の代表も、米国総領事館をはじめ、沖縄防衛局や外務省沖縄事務所を訪問し、厳重に抗議した。

よって、本市議会は、米国政府に対し、日本国民の人権・生命・財産を守る立場から、繰り返される事件に厳重に抗議するとともに、被害者への謝罪と補償、米軍人・軍属等の綱紀粛正及び教育を徹底的に行うなど実効性ある再発防止策を講ずるよう強く求めるものである。

以上につき、決議する。

平成24年（2012年）12月13日

札幌市議会

（提出先）アメリカ合衆国バラク・オバマ大統領

（提出者）全議員